

| | | | | | | | |
|-------|----------------------|------|----|-------|-------|-----|-------|
| 評価施策名 | 5 伝統文化を継承する | 施策CD | 25 | 施策主管部 | 教育委員会 | 部長名 | 大野 光博 |
| 政策名 | 第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る | | | 施策関係部 | 美山支所 | | |

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

| 目標項目(成果) | 単位 | H20 | H21 | H22 | | H23 | H24 |
|--------------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | | 実績値 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 目標値 |
| 文化財登録数 | 件 | 148 | 147 | 148 | 141 | 148 | 150 |
| 文化博物館・郷土資料館の年間入場者数 | 人 | 7,763 | 6,907 | 8,100 | 6,821 | 8,300 | 12,000 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

○ 歴史文化遺産を市民共通の財産として保存、継承する。

1 南丹市の現状(課題)

○ 歴史文化遺産を様々な調査を経て文化財に指定するなどの措置を講じている。
 ○ 文化財は、保存と活用を併せて進める視点も、歴史文化の周知や観光振興の上で大切であり、次の世代に保存、継承しなければならない。
 ○ 国の登録文化財制度を活用した取り組みを本市でも進めている。
 ○ 文化博物館、郷土資料館などで文化財関係資料の展示・公開を行うとともに、児童生徒、市民や来訪者へ歴史文化を学ぶ機会を提供している。

(現状)
 ・文化博物館・郷土資料館の年間入場者数 7,763人(平成20年)

2 対策をしなければどうなるのか

○ 長い歴史の中で培われてきた文化の継承ができない。

3 それは何故おきたのか

○ 長い歴史の中で培われた多様な文化があり、次代に引き継がなければならない。
 ○ 市域には多くの指定文化財があり、それらの保護に必要な支援を行ってきた。
 ○ 伝統的建造物群保存地区のかやぶき民家群は、多くの観光客が訪れている。

4 それらを解決するために何をするのか

①歴史文化遺産を保存する。
 ・地域の歴史文化資料、伝統行事などの調査、収集
 ・国登録文化財制度の積極的な活用
 ・文化財の保護の推進
 ・歴史文化遺産の保存等の推進と支援の実施

②財産を愛護し、次代へ引き継げるよう意識の向上を図る。
 ・遺産に対する市民の理解の向上
 ・教育に関する啓発の推進
 ・歴史文化に詳しい市民の協力
 ・民俗文化継承に関する支援
 ・遺産の観光活用
 ・遺産周辺の環境整備及び案内機能の強化

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

| | 単位 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | |
|----------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 決算額(計画額) | 千円 | 43,182 | 34,167 | 46,146 | 49,923 | 46,527 | |
| 財源内訳 | 使用料・手数料 | 千円 | 0 | 8,055 | 5,053 | 2,499 | 1,392 |
| | 国・府支出金 | 千円 | 11,729 | 7,833 | 7,821 | 4,725 | 7,275 |
| | 地方債 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 一般財源 | 千円 | 31,453 | 18,279 | 33,272 | 42,699 | 37,860 |
| 職員従事人数 | 人・年 | 7.41 | 11.21 | 11.42 | | | |
| 人件費 | 千円 | 33,880 | 41,741 | 44,543 | | | |
| 事業費総額 | 千円 | 77,062 | 75,908 | 90,688 | | | |

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 17 事業

単位:千円

| 事業名(細事業名) | 決算額 | うち一般財源 | |
|------------------------|-------|--------|-------|
| | | うち一般財源 | うち人件費 |
| 文化財維持管理費(文化財維持管理費) | 2,470 | 2,109 | 328 |
| 文化財保護事業(文化財保護事業) | 3,075 | 3,075 | 2,466 |
| 文化資料保全補助事業(文化資料保全補助事業) | 4,265 | 3,905 | 2,655 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】
 文化財登録数、文化博物館・日吉町郷土資料館の入館者数は目標値を下回っている。これは、新型インフルエンザの流行が影響したと考えられる。文化財の登録数は、南丹市の「名木」を追加するか文化財保護審議会で審議中である。日吉町郷土資料館の入場者数は、レンタサイクル事業もカウントしており、今後このレンタサイクル事業の移行を考えている。

【改善の方向性】
 CATVを活用し、南丹市内の文化財をシリーズ的に紹介して、市民に文化財保護の理解を深めてもらう。旧町単位や小学校下単位で、小・中学生や地域住民等と地域の歴史の掘り起こしを協働でおこなう。その調査結果を文化博物館等で展示し、広く広報・啓発していく。(児童生徒の郷土愛が生まれる。また、成果品として報告書を市民と連携の下で作成していく。)

【今年度の評価】

【総合評価】
 ①目標の達成状況
 新規文化財登録は無し
 文化博物館、日吉町郷土資料館の入館者が目標値を下回った。

②目標値や施策の考え方の見直し

【改善の方向性】
 ①今後の方向性
 「文化財保護法」及び「南丹市文化財保護条例」の趣旨に沿った、文化財の保護及び調査・指定登録の推進

②各事業の対応
 市民の文化財や郷土を愛する心を育てるために文化博物館や郷土資料館を中心に企画展や体験活動の充実
 美術工芸品、建造物、民俗文化財等の主に未指定の文化財について現地に赴き調査を実施する。
 文化財審議会において「市指定樹木」に関し、審議を継続する。

【評価を受けて取り組んだこと】

* 調査研究
 ・博物館の収蔵品である歴代園部藩主であった小出氏の蔵本及び藩校で使用したとされる書籍群「小出文庫」の調査を行った。
 ・博物館、資料館で所蔵している記録写真のデータ化

* 博物館等での展示・広報
 ・市内小中学校並びに亀岡市京丹波町管内の小中学校にも呼びかけ、児童・生徒の作品展示する「南丹美術工芸展」と市内で活躍されている工芸作家や団体による「工芸品展示会」を行った。